

## ■面倒な人の取り扱い方、

## 面倒な人からの取り扱われ方

修正： 2023.01.01

投稿： 2023.01.01

## 面倒な人の取り扱い方



## 面倒な人からの取り扱われ方

### ●面倒な人の取り扱い方、面倒な人からの取り扱われ方①

ますますデジタル化が進んでいる今日この頃ですが、  
だからこそ、アナログなことを  
大切にしたいと思っている次第です。年賀状に  
手書きのメッセージと真心を添えて、郵送！

//-----

「私の趣味は残業です！」みたいな人が職場に一定数はいます。  
働かない人がいる一方で、いつまでも働き続ける人もいるのです。

働き方改革を受けて、会社もようやく重い重い腰を上げました。  
あれから年月も経ち、少しずつではありますが、  
全体的に残業は軽減されてきました。が、  
それでも一部の人はやたら残業しがります。

「え？ 帰らないんですか？ なぜ？」

「え？ 家に帰ってもやることないって？」

いやいや、そんなことないだろ。

だって、お前、家族、いるじゃん！」

と言う話ですが、他にも、「残業すれば収入が増える」とか  
「この仕事は今日中に終わらせたいんで」などなど、  
残業する・残業したい理由はいろいろあるようです。

しかし、そういう人が「会社に尽くす人」として、  
会社から高く評価されているのもまた事実です。管理職や役員は、  
仕事が好きという人が多い、と言うのは当たり前のことです。

よく「楽しんでそれをやる人には勝てない」と言われていますが、  
仕事も同様です。嫌いな勉強は全然頭に入りませんが、  
好きなことであればいつの間にか覚えてしまうものです。

仕事も好き嫌いでこなす時代になりつつある、と言うことです。  
政府の指針である「働き方改革」を真に受けて、  
ほどほどに仕事に取り組もうとする(若い)人は、残念ながら、  
仕事が好きで精を出し成果を上げる人にはさすがに勝てません。

働き方改革であろうと何であろうと、  
働いて成果を上げた人が評価されることに変わりはないのです。

(続)

//=====//

## ●面倒な人の取り扱い方、面倒な人からの取り扱われ方②

人を知らない人ほど、  
「他人も自分と同じようなものだろう」  
と何となくそう考えてしまうものです。

ゆえに、自分ができるとは、  
他の人も同じようにできるのだと  
勘違いしてしまうものです。例えば、

「自分はこの仕事を 1 カ月で覚え、かつ、  
自分はこの仕事を 3 日で完了できる」

となれば、その人にとってその仕事は、

「1 カ月で覚えるべき仕事であり、  
3 日で完了させるべき仕事」という認識になります。

しかし実際には人によって個体差があり、  
その仕事を 1.5 カ月で覚える人もいれば、  
完了までに 1 週間かかる人もいます。すると、

「どうしてお前は期限までに作業が完了できないんだ！」

と怒るわけですが、作業している側からすると、  
「**だって個体差なんでもーん！**」という話です。そうして、

「**努力が足りん！**」と行き着くところは**根性論**となります。  
そんな気持ちも分からなくはないですが、  
どんなに圧力をかけてもできないものはできないのです。  
それどころか恨みを買いかねません。

個体差を無視する職場ほど、**人を見ず仕事を見て**、  
「ここでは結果がすべてだ！」などと言い出し、  
「終わるまで帰るな！」のブラックな風土になっていきます。

自分ができるからと言って、  
目の前の人も同じようにできると考えてはいけないのです。  
自分が仕事熱心だからと言って、目の前の人も  
同じように熱心に仕事するというわけではないのです。

これは、**自分が相手のことを好きだから**と言って、  
**相手も自分のことが好きとは限らないことと同じ**です。

(続)

//=====//

## ●面倒な人の取り扱い方、面倒な人からの取り扱われ方③

何をやるにしても、評価されるまでには時間がかかるな～  
なんて思っている今日この頃です。  
過小評価されていることが将来性なのだそうで、  
でも言われてみれば確かにそうですね。

//-----

さてさて本題ですが、

**「働けないから働きません！」**と主張する

お年寄りな社員が部下にいたらどう接しますか？

長年会社に尽くしてきたものの、

年を取るにつれて、徐々に成果を上げられなくなってしまい、

今では人並みに仕事をこなすことすらできなくなった、

と言う社員がいます。

アスリートの世界なら、

成果を上げられなくなると容赦なく戦力外通告されます。

そして、**年齢に比例して仕事する能力が無くなる**のは、

一般の会社でも同じことです。

だからと言って**「役に立てないなら去れ！」**と言うわけにもいきません。

60才を定年としていても、本人が望めば、

65才まで雇用しなければなりませんし、

70才までの雇用が努力義務になっています。

今までの流れからしてそのうち義務化されそうですが。

長年会社に尽くしてきたわけですから、

後から入社した若い人に指示されて素直に従うわけもなく、

仕事内容を丁寧に説明しても思うように仕事が進まず、

扱いに苦労しているそうです。

それでも、周囲のフォローで何とか仕事は回っているとのこと。

雇用義務の年齢の引き上げに伴い、年金の支給される年齢も

引き上げられていますが、依然として問題は残ったままです。

結局、会社は、**給料**として払うのか、

**税金**として国に払って社会保障に使われるかでしかなく、

**どっちにしろ金は流れる**わけであり、であれば、

**働けない人を無理に働かせる**と言うのはいかながなものか、

と疑問に思うところです。

(続)

//=====//

## ●面倒な人の取り扱い方、面倒な人からの取り扱われ方④

フリーランサーの割合が以前より増えてきました。

元社員がフリーランスになる、と言うケースもしばしばです。

中にはやたらプライドの高い人もいますが…。

そういう人の言い分として、

「俺はサラリーマンじゃないんだ！

上司の指示で動くだけの雇われのサラリーマンとは

根本的に働き方も立場も違うんだ！ (´ー`)ノ 」と言う具合に、

フリーランスであることに、

やたら誇りをもっておられるわけです。

が、…、社長から見れば、

「いやいや、お前しょせん、独立したというだけで、

法人格一つ持つこともできない、

ただのはぐれ者じゃん！ (-。-)y-° ° ° 」

と言う感じに映っています。

それでも捨てきれない謎のプライドがあって、

「サラリーマンとは違う！間違えないでほしい！ (。-`ω-) 」と、

締結している契約の名前でマウントを取ろうとする人もいます。

そんなフリーランサーですが、社員から見ると、

ある意味、**金で動く雑用係**のような面もあって、  
**誰もやりたがらない嫌な仕事や、**  
**手間のかかる面倒な仕事を、積極的に回していたりします。**

なんてったってお金で解決できますからね。  
社員なら駄々をこねますが…。そういう意味では、  
サラリーマンよりサラリーマンな感じにも見えるわけです。  
と言うわけで、会社としては重宝しています。

つまり、仕事を依頼するサラリーマンからすると、  
**「あっ！フリーランサー殿でしたか、**  
**ではでは、嫌な仕事はお任せしました～！！（￣▽￣）」**  
と言う感じです。人を使って人に使われる。いいと思います。

(完)

//=====//

Web サイト：  
**データアクションサービス —データからアクションを起こす—**

著者：  
**時無 和考(Tokinashi Kazutaka)**